

琉球大学学術リポジトリ

沖縄戦後住宅における建築家仲座久雄の活動

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2019-05-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金城, 春野, Kinjo, Haruno メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/44475

(様式第5-3) 論文博士

平成 31 年 2 月 8 日

琉球大学大学院
理工学研究科長 殿

論文審査委員

主査 氏 名 小倉 暢之

副査 氏 名 清水 肇

副査 氏 名 カストロ・ホワン・ホセ

印

印

印

学位（博士）論文審査及び学力確認終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び学力確認を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	氏名 金城 春野	生年月日
現住所		
成績評価	学位論文 <input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	学力確認 <input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文題目	沖縄戦後住宅における建築家仲座久雄の活動	
審査要旨（2000字以内） 本論は、沖縄の戦後復興において住宅設計を通して大きな功績を残した建築家仲座久雄の活動について、終戦直後の応急住宅である規格住宅からコンクリート住宅の普及まで指導的立場にあった彼の設計内容の特色と意義について考察するものである。本論は2部構成により、第1部では規格住宅の計画と供給、第2部ではコンクリート住宅普及黎明期における建築活動となっており、計11章で構成されている。 仲座の戦後活動については、これまで様々な形で紹介されて来たが、彼の大きな功績である戦後住宅供給と設計に関する系統立てた研究論文は殆んど見られない。特に、終戦直後の応急住宅である規格住		

(次頁へ続く)

宅の計画、及びコンクリート住宅の推進に関する功績は大きく、今日見るコンクリート住宅普及の牽引・指導者としての活動は地元の同時代建築界にあって特別な存在であり、その研究は戦後沖縄近代建築史の研究に欠くべからざる学術的意義を有している。

申請者は、近年開示され始めた当時の米軍関係公文書へのアクセスと仲座の遺族から直接的に多くの資料やインタビューの機会を得る事ができ、その他にも当時の新聞・雑誌等、多様な出版物の収集も行い、事実関係の照合にも精力的に取り組んで活動内容を詳細に分析する事により有意義な研究成果に繋げる事ができた。

第1部の「規格住宅の計画と供給」では、これまでその存在が知られていなかった設計図面を探し当て、図面に基づく建築部材と建築模型の復元製作により住宅の基本的設計方針を明らかにすると共に、当時の建設環境の中で最も合理的な生産方法を実践した様子を明らかにした点が大きく注目される。取り分け、終戦直後の困難な資材調達状況、建設関係の人材不足、そして何よりも膨大な需要戸数の早急な対応等、仲座に課された困難な問題に如何に対応していったのかが米国海軍政府公文書記録により克明に調べ上げられている。仲座の提案した設計は、当時の地元市民の家族生活に最小限必要なスペースを確保し、現場作業は婦人の協力作業でも賄える様に規格化された部材を用い、短時間の組み立て作業で完成する内容である。

また、復興政策の中で住民向け住宅供給の重要性や供給のための具体的方針について分析を行い、これまで概数で約7万5千戸もしくは73,500戸と表現されていた総生産戸数を月毎の数値を公文書記録から総計して正確な生産戸数を76,815戸とした点も研究成果の一つとして挙げられる。これらは今日の災害復旧支援住宅の設計を考える上でも学ぶべき点が多く、住宅供給組織と運営方法の解明には大きな学術的意義が認められる。

第2部の「コンクリート住宅普及黎明期における建築活動」では、今日地元社会で広く普及しているコンクリート住宅の発展過程をその前身である石や煉瓦を用いた組積造住宅の試み、さらに同時期に設計した木造住宅の設計を含めて幅広く仲座の設計図面を収集し、これらを比較分析する事で初期コンクリート造の特色及び創意工夫の様子を考察している。本研究からは、仲座自身が自宅や事務所にいち早くコンクリート造を採用し、熱や湿気の問題を直に経験しながら沖縄の気候風土に適した設計方法の提案を行った様子が窺え、建築設計の気候への適応過程を解明する上で有意義な成果をあげている。

さらに、深刻な台風や白蟻被害に対して有効なコンクリート造を如何に地元一般市民の手の届く物にする事が可能なのかという問題にも積極的に取り組み、住宅融資制度の抜本的改正にも尽力した事実を明らかにしている。また、普及黎明期においてはコンクリート造は米国からもたらされた先進技術であり、地元市民には馴染みの薄いものであったが、農村住宅設計コンクールの開催とその結果を各種新聞や雑誌などで紹介したり小冊子を発行するなど、仲座の積極的な広報活動が琉球政府をはじめとする関係者の関心と賛同を得る大きな要因となり融資制度の実現に寄与した経緯も明らかになった。

以上のように戦後沖縄の住宅設計において仲座久雄の果たした役割は大きく、本研究を通してその内容が明らかにされた事は今後の戦後沖縄建築史の研究に重要な学術資料を提供するものである。

したがって、本研究成果は学術的に有用であり、提出された学位論文は博士の学位論文に相当するものと判断し学位論文の審査を合格とする。また、論文発表会における発表ならびに質疑応答において、申請者は専門分野および関連分野の十分な知識ならびに十分な研究能力を有していることが確認できたので最終試験を合格とする。さらに学力確認のための外国語筆記試験において優秀な成績を修めたので学力試験を合格とする。